

コメント

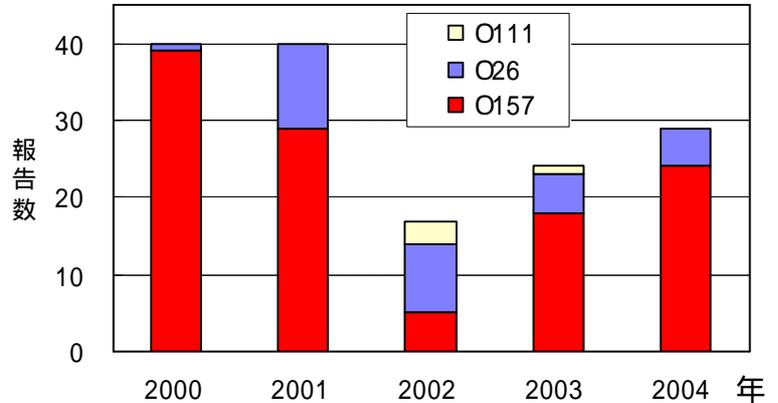
1.腸管出血性大腸菌感染症

8件の報告があり 8月の報告数は13件と急増しています。今年の報告数は計29件となり、2003年1年間の報告数を超えました。気温の高い時期であり、一層の注意が必要です。

2.ヘルパンギーナ

定点当り0.71人と減少しています。5週続けて減少しており、終息傾向にあるものと考えられます。安芸区では4.5人となっています。

腸管出血性大腸菌感染症の年間報告数の推移



(注) 2004年は8月22日までの報告数です。

5類感染症報告状況 (定点把握対象分)

疾患名	報告数	定点当り	平均 過去4年間 (注1)	発生記号	疾患名	報告数	定点当り	平均 過去4年間 (注1)	発生記号
インフルエンザ (注2)	-	-	-		麻疹 (注3)	1	0.04	0.08	
咽頭結膜熱	8	0.33	0.13		流行性耳下腺炎	9	0.38	0.97	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	9	0.38	0.39		RSウイルス感染症	-	-	-	
感染性胃腸炎	80	3.33	1.97	↘	急性出血性結膜炎	-	-	-	
水痘	11	0.46	0.58		流行性角結膜炎	8	1.00	1.41	
手足口病	11	0.46	0.99		細菌性髄膜炎	-	-	-	
伝染性紅斑	7	0.29	0.33		無菌性髄膜炎	1	0.14	0.29	
突発性発疹	23	0.96	1.21		マイコプラズマ肺炎	1	0.14	0.39	
百日咳	-	-	0.03		クラミジア肺炎 (注4)	-	-	-	
風しん	-	-	0.05		成人麻疹	-	-	-	
ヘルパンギーナ	17	0.71	0.55	↙					

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1.2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1.15～2の増減
微増減	↖	↙	前週と比較しておおむね1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

一時的な変動と考えられる場合は、前週との比較ではなく傾向を示しています。また報告数が少なく傾向の判断が不適切と思われるものについては、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数 37 (小児科定点含む)  
小児科定点数 24  
眼科定点数 8  
性感染症定点数 9  
基幹定点数 7

(注1) 過去4年間の同時期平均 (定点当り)  
(注2) 高病原性鳥インフルエンザを除く  
(注3) 成人麻疹を除く  
(注4) オウム病を除く

1類～5類感染症報告状況 (全数把握対象分)

類型	疾患名	報告数	累積	備考
3	腸管出血性大腸菌感染症	8	29	男性(10歳未満)・O157, 男性(10歳代)・O157, 男性(10歳代)・O157 男性(20歳代)・O157, 男性(20歳代)・O157, 女性(50歳代)・O157 男性(10歳未満)・O26, 女性(10歳未満)・O26
4	デング熱	1	1	女性(20歳代)
5	ウイルス性肝炎	1	5	男性(60歳代)・C型
5	後天性免疫不全症候群	1	12	男性(30歳代)・無症候性キャリア

